

2018年11月25日 川越教会

この素晴らしき世界に

丸山 勉

[聖書] イザヤ書 65章 8節、16～19節

主はこう言われる。ぶどうの房に汁があれば、それを損なうな
そこには祝福があるから、と人は言う。わたしはわが僕らのために
すべてを損なうことはしない。

この地で祝福される人は 真実の神によって祝福され
この地で誓う人は真実の神によって誓う。
初めからの苦しみは忘れられる。わたしの目から隠されるからである。
見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。
それはだれの心にも上ることはない。
代々とこしえに喜び楽しみ、喜び躍れ。わたしは創造する。見よ、わたしはエルサレム
を喜び躍るものとして その民を喜び楽しむものとして、創造する。
わたしはエルサレムを喜びとし わたしの民を楽しみとする。
泣く声、叫ぶ声は、再びその中に響くことがない。

[序] 牧師就任式から三ヶ月

今日は11月25日です。丁度三ヶ月前は何の日だったかと言うと、この礼拝堂で、
牧師就任按手式感謝礼拝が行われた日です。皆様のお祈りに支えられて、何とか三
ヶ月間、ご一緒に教会生活を過ごす事が出来ました。神様の憐れみと、皆様の愛と
忍耐、そしてお祈りを心より感謝しております。ありがとうございます。

しかし、何十年も牧師をなさってきた加藤先生、山下先生には本当に頭が下がります。
三ヶ月間過ごしただけでも、牧師の職務の重たさのようなものを感じ始めて
います。これを長期にわたって負っていくということは、本当に自分の力、人間の
力では出来ないことを実感として思い始めています。どうぞ、この者が成長しながら
継続して続けられますよう、皆様に続けてお祈りして頂ければと思っております。

さて、今日も旧約聖書イザヤ書から聞いて参ります。正直に申しますと、私はど
ちらかと言うと、新約聖書に比べて旧約聖書は難しいなあ、とってしまうのです。
歴史があまり得意ではないということもありますけれども、何か手応えを持って掴
み切れない印象を持ってしまう。特に今日のような箇所は、とてもスケールの
大きな預言が語られていますよね。それを、このちっぽけな頭では捉え切れないの
です。「御言葉の解き明かし」というのは、正直、なかなかしんどいものです。

けれども、いわゆる聖書解説ならば、それはお一人ひとりが注解書を読めば良い

わけですから、私は、私がここで受け止めさせて頂いた恵みを、ご一緒に分かち合わせて頂きたいと思っています。

[1] この素晴らしき世界 (What a wonderful world)

今日の聖書テキストの中で、神様は、イザヤを通して、新しい天と新しい地を創造するのだ、そしてその新しい世界の中ではこのようなことが実現するのですよ、と、私たちが心のどこかで「世界がこのようであったら、どんなにいいだろう…」と思うような預言を語ります。それを見ていきたいと思いますが、その前にちょっと伏線（脱線？）と言いますか、お話したいことがあります。それは、私は今日の宣教題を「この素晴らしき世界に」としたことです。

「この素晴らしき世界」と言うと、このタイトルで、アメリカ人のルイ・アームストロングが、だみ声で歌う名曲「What a Wonderful World(邦訳「この素晴らしき世界」)」を思い起す方も多いと思います。

♪I see trees of green, red roses too…という歌ですね。

はじめの歌詞はこのようになっています。

「緑の木々が見える 赤いバラも 君と僕のために咲いているんだ。 何て素晴らしい世界なんだろう。 真っ青な空や白い雲が見える 輝かしい祝福の昼 そして暗く神聖な夜 心から思うよ 何て素晴らしい世界なんだろう…。」

心の中から霧が取り払われていくような、誠に気持ちの良い曲ですね。けれどもこの歌は、単純にこの世界の美しさを歌った歌という訳ではなく、この曲がレコーディングされた1967年、あのベトナム戦争の反省を込めて作られた歌だということを知りました。ですから、ここには一種のアイロニー（皮肉）も隠されているのです。けれどもこの曲は大ヒットし、ベトナム戦争後のアメリカの人々に慰めと希望を大いに与える曲になったということです。

何故こんな話をしたかといいましと、今日のこのイザヤ書 65章の美しい預言の言葉も、ただ美しいだけでなく、それが語られるための厳しい現実があったということを感じておきたかったからです。

[2] バビロン捕囚後のユダヤ人に向けて

紀元前538年、バビロンに捕囚になっていた当時のユダヤ人たちは、そのバビロンがペルシアに滅ぼされることによって、60年間の異国での辛い生活から帰還することが出来ました。けれども、それで薔薇色の生活に戻れたかという、そんなことはありませんでした。抛り所になっていたエルサレム神殿は崩壊し、町も荒廃し、貧しさの中で喘いでいる。年月も経ったので、当時の事を良く知っている者も少なくなっていた。こんな状況の中で、頑張っって再建をしようとしたわけですがけれども、

簡単な事ではありません。心がついて行かず、絶望的な気持ちになっていたようです。今日のイザヤ書が書かれた背景にはそのような状況がありました。

イザヤは、このような当時のユダヤの民に向かって、一面かなり厳しい、神様からの預言の言葉を語っています。この65章の中でもそうです。神様は契約の民としてユダヤ人をお選びになったのに、それに背を向け、他の神々（偶像）に平伏していったその民に向かって、例えばこのように語っています。6～7節をお読みします。

「わたしは黙すことなく、必ず報いる。彼らのふところに報いる。彼らの悪も先祖の悪も共に、と主は言われる。彼らは山の上で香をたき 丘の上でわたしを嘲った。わたしは、初めから彼らがしてきた業を量り そのふところに報いる。」——恐い言葉です。

しかし、そう語った直後に、今度は逆のようなことを述べます。それが8節です。

「主はこう言われる。ぶどうの房に汁があれば、それを損なうな そこには祝福があるから、と人は言う。わたしはわが僕らのために すべてを損なうことはしない。」

つまり、ユダヤ人全体の中に、ぶどうの汁になぞらえることが出来る霊の心が残っているのなら、そのことの故に私はこの民すべてを損なうことなしない、と宣言されているのです。「神様、一体どっちなのですか？」と言いたくなります。しかし、私は思うのですが、こういうところが実に旧約聖書のダイナミックなところなのかもしれないと思うのです。——神様は、何か絶対的な法則のようなお方ではなく、生きておられる方なのですね。言い方を変えれば、心を持ち、葛藤されているのではないのでしょうか？

そして、この神様は、歴史を超えた方ですけれども、その時の歴史の只中に生きる人々の姿をつぶさに見て、そして心を動かされて、ついに一つの決断をなさいました。それは、人々に、呪いではなく、祝福をもたらすこと、そして、何と、新しい天と新しい地の創造ということでした。

[3] 新しい天と新しい地は誰のため？

イザヤ書 65章 16～17節をお読みします。

「この地で祝福される人は 真実の神によって祝福され

この地で誓う人は真実の神によって誓う。

初めからの苦しみは忘れられる。わたしの目から隠されるからである。

見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない
それはだれの心にも上ることはない。」

今読んだ所で、「初めからのことを思い起こす者はない」とありますが、これは、イスラエル民族の、罪の歴史についてのことです。そしてそれは苦難の歴史でもあり

ました。その「初めからの苦しみは忘れられる」とあります。そして、「わたしの目から隠されるから」だ、と言うのです。驚きではないでしょうか。神様がもうそのイスラエルの民の罪を、目から隠すと言うのですから。けれども、それは、罪を水に流すということではありません。もっと積極的なことです。それが17節の言葉です。

「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。」(！)

えっ？と思いませんか。ここまでは、と私は思いました。これは何を意味するのでしょうか。この新しい天と新しい地は誰のために用意されるのでしょうか？——罪を犯した人間、まことの神様に反抗した民が、もう一度やり直しをする場所を、神様ご自身がご用意される、ということではないでしょうか？既にそこには、「赦し」がありますね。

神様はよくご存知なのだと思えます。人間は、自分の力では自分を変えることが出来ないことを。人間は、神様の力によって造り変えられなければ、神様との関係を修復できないことを。ですから、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。」と言うのです。——このように神様は、無から有を造り出したあの天地創造の御わざを、今度は、罪を犯した人間、つまり私たちのためになそうと決意されたのです！

ですから、この17～19節の中では、繰返し「創造」という言葉が出てきます。これは「バーラー」というヘブル語で、何かを加工して作る意味の「創造」ではなくて、何もない所から生み出す、神的な意味が明確にある「創造」という言葉です。

「わたしは創造する。見よ、わたしはエルサレムを喜び躍るものとして その民を喜び楽しむものとして、創造する。」(65:18)

けれども、この、創造され新しい天と地に住む者とされた人間は、永遠の生命を持つとは書かれておりません。しかし、この旧約聖書という、ある意味、限界の中にあって、驚くような祝福がもたらされる、ということはこのあとで記しています。

その一つは、当時の祝福の証である「長寿」、また、「他者に脅かされることのない安心した営み」(その背後には、エジプトでの苦難の歴史や、バビロン捕囚があった)、そして何と言っても、これまで遠く隔たっていると思われていた神様ご自身と、呼べばすぐに答える近い関係の中に生きていくことが出来ることが記されています。

20節以下も読んでみたいと思います。皆様も聖書をご覧下さればと思います。

「そこには、もはや若死にする者も 年老いて長寿を満たさない者もなくなる。

百歳で死ぬ者は若者とされ 百歳に達しない者は呪われた者とされる。彼らは家を建てて住み ぶどうを植えてその実を食べる。彼らが建てたものに他国人が住むことはなく 彼らが植えたものを 他国人が食べることもない。

わたしの民の一生は木の一生のようになり わたしに選ばれた者らは 彼らの手の業

にまさって長らえる。彼らは無駄に労することなく 生まれた子を死の恐怖に渡すこともない。彼らは、その子孫と共に 主に祝福された者の一族となる。

彼らが呼びかけるより先に、わたしは答え まだ語りかけている間に、聞き届ける。」

ここには、永遠の生命こそまだ記されておりませんが、私たちが考え得る最高の幸福の形が、既に描かれていると思うのです。神様が与えて下さる祝福とは、私たちが本当に「生きてて良かった、生きていることが嬉しい」と心底思わせて下さる世界なのだと思います。そして、その日が「来る」のだ、とイザヤ書は告げるのです。

そしてイザヤは、狼と羊が共に生きる姿で象徴される**平和な世界の幻**をも語りまします (25 節)。これは、メシア (救い主) がもたらす救いの完成の日の預言と言って良いもので、既に 11 章で更に詳しく描写されていたものです。

[結] 昨日よりも救いが近づいている

私は、今日の言葉の中で、**神様は新しい「地」を下さる**、ということが特に心に留まりました。「地」です。「土地」です。私たちは「地」に足を下ろして、汗を流して生きています。その「地」を神様は消してしまうのではなくて、新しくして下さるというのです。嬉しいです！神様は私たちを、おかしな言い方かもしれませんが、死んだ後も、ずっと、その新しい「地」で生かそうと**プランして下さっている**のです。**神様と共に**、です。今日交読文として読んだ新約聖書のヨハネの黙示録の21章の究極的な**「新天新地」の幻**は、正にそのことを私たちに告げてくれているのではないのでしょうか。今日はヨハネの黙示録までていねいに味わうことは出来ませんが、本当に深い慰めを与えられますよね。

そして、この「地」。ここは正に祝福された「地」なのですね。なぜならば、この「地」は、今から二千年前に、**救い主が、メシアが産声をあげた「地」**なのですから。何のために？**全ての人間を神様の御許に招くために**、です。ですから、この地は、どんなに人間の罪で汚されていたとしても、美しい地です。“What a Wonderful World”です。ここは、**イエス様が歩まれ、そして血を流された「地」**。神様はこの「地」をお見捨てにならなかったのです。私たちが生きる場所にはこの主の愛が溢れています。

今日はこのあと午後に、墓前礼拝と、この9月に召された一人の姉妹の**納骨式**を教会墓地で致します。私は思うのですが、私たちは一日一日老いていくと考えがちですが、それは**肉体だけの問題**です。そうではなく、私たちは、昨日より今日、今日より明日、毎日毎日、神様が下さる**まことの新しい天と新しい地に移される日、救いの日に近づいている**のです。使徒パウロは確信を持って語ってくれました。そのローマの信徒への手紙 13 章の言葉をお読みして、祈りたいと思います。来週の日曜日は**いよいよアドベント**。主イエス様の到来を待ち望むその第一週を迎えます。

「あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。」(ローマ 13:11~12)

お祈り致します。

主イエス・キリストの父なる神様、あなたの御名を讃えます。
あなたは歴史を支配し、それゆえ、私たち一人ひとりの人生をもご計画のうちに導いて下さるお方です。そして、あなたが私たちに下さる約束は、決してわざわいではなく、祝福であることを学びました。心より感謝致します。

今、この地上を歩むこの地は、主イエス様の御足の跡が刻まれている場所です。この場所で私たちは生き、やがて、あなたの時の中で、新しい天と新しい地に生きる世界へと移して下さい。そのことを信じます。

どうぞ、あなたの深い愛の中で日々を生きさせて下さい。あなたの平和のうちに過ごさせて下さい。そして、私たちも、様々な人間関係の中で、あなたの愛を映し出す者として生きることが出来ますよう、聖霊によって励まし、導いて下さい。

午後の墓前礼拝、また納骨式をもあなたの恵みの時として下さい。

救い主イエス・キリストの御名によってお祈り致します。 アーメン。